



碧南ロータリークラブ週報

第3012回例会 令和4年5月11日(水)

- 会長 新美 雅浩
- 幹事 栗津 康之
- 会場監督(SAA) 岡本 耕也

2021-2022 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

- 会報委員 石川鋼勇・鈴木 洋・藤関孝典・小林 尚

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

碧南市教育部スポーツ課 課長 加藤和彦様
 // 係長 鈴木章宏様

会 長 挨 拶

改めまして、皆さん、こんにちは。

早いもので5月に入りまして、新年度に向けて総会等が盛んに行われる時期になりました。季節は二十四節気で言いますと、立夏(りっか)という節目に入りまして、夏の気配がそろそろ感じられるような暦となっております。今週は雨模様の日が続いておりますけれども、ゴールデンウィーク期間中はとても穏やかで良い天候に恵まれて、皆さんそれぞれ充実した日々を過ごされたと存じます。



新美雅浩会長

さて、5月は青少年奉仕月間ということでもありますけれども、今日は高齢者のことについて取り上げさせていただきたいと思います。今から数年前ですけれども、高齢者が絡んだ交通事故を減少させる為に高齢者から運転免許証を自主返納させるという動きがございました。今もその動きがある訳ですけれども、特に数年前は強い動きがあったように記憶しております。高齢者の交通事故が多いというよりも、少子高齢化が進んでいる訳でございますので、相対的に高齢者の事故比率が高まるということで、至極当然のことになる訳ですけれども、高齢者が交通事故を起こしますと、マスコミが挙ってそれを取り上げてまして、何かこう圧力を掛けるように報道をして、まだ元気で運転能力のある高齢者に対しても、ご家族から説得されてやむを得ず運転免許証を返納する動きがございました。

一方でこのことが進みますと、これまで便利であった車という交通手段を取り上げられて

しまったことによりまして、ちょっとした買い物や簡単に済ませられるはずのことができなくなるということで、自転車や徒歩で出掛ける機会が増える傾向にありまして、それが原因で交通事故に巻き込まれる可能性が出てくるという状況です。そうすると時代が求めるのは高齢者を外に出さないようにするというので、外を出歩かずに家の中でずっと閉じこもってもらって、家に居ながら食事や色々な用を足せるサービスが受けられるような動きも出てきているということでございます。

こういった世の中の動きに対して懸念されるのが、例えば、食事を取るにしても、味気ない宅配サービスのものを食べるのではなくて、本来、美味しい食事を取るということは人が生きていく上で欠かせない行為でございます、人生 100 年時代という時代を迎えている訳ですので、それを満喫する為に元気な高齢者に対して外出をさせずに決められた時間に弁当が宅配されるようなサービスというのはどうなのかなと感じるところでございます。高齢者もスーパーマーケットに行って、その日の夜の献立を色々考えながら食材を購入して、それを自分で調理をして、残った食材を処分して、出来上がった料理を盛り付けて食べる、そして、食べ終えた食器を洗って、生ゴミをまとめて捨てる、という一連の行為が食事ということで、生きていくということの価値そのものであると思います。

高齢者が絡む課題ですけれども、我々の社会の中で非常に重要な問題でありまして、複雑多岐に絡んでおりますので、その課題の解決方法というのは切ったり張ったりするような単純なものでは済まなくなってきたのはご案内の通りでございます、高齢者という単なる一括りで存在を否定する、単純に物事を論じて高齢者の生きがいを奪ってしまうというのは非常に危険な発想ではないかなと感じております。私も 60 歳代に入りまして、高齢者の入り口に立っております。それぞれの世代が互いに支え合って、生きがいを持てる社会作りというのを期待するところでございます、ロータリークラブにもそういった切り口の活動が求められているんじゃないかなあと感じる次第でございます。

以上をもちまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ ロータリーレート変更のお知らせということで、RI 日本事務局より 5 月のレートのお知らせが届いております。現行 1 ドル 122 円から 130 円になります。
- ・ ガバナー事務所より「2022 年ロータリー国際大会のライブ配信ご登録のご案内」が届いております。国際大会に足を運べない方もバーチャル形式でご参加いただけます。
- ・ 第 2760 地区学友委員会より「エコキャップ回収活動ご協力のお願い」が届いております。6 月 22 日（水）の最終例会まで例会受付にて回収致しますので、ご協力いただける方は例会出席時にご持参いただけますと大変助かります。



栗津康之幹事

- ・ 西尾 KIRARARC ・ 地区研修 ・ 協議会実行委員会より「地区研修協議会ご出席のお礼」が届いております。
- ・ 本年度、IM 等で使用しましたオレンジ色のジャンバーにつきましては、各自で保管をお願い致します。
- ・ 当クラブが平成 5 年にロータリー財団国際親善奨学生としてお世話をしました、石川文也様（立教大学 異文化コミュニケーション学部教授）より図書出版のご案内がございました。
- ・ 例会規定によりまして、5 月から 10 月の間はクールビズということになっておりますので、よろしくお願い致します。

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 62 名（内出席免除者 13 名の内出席者 9 名）出席者 52 名	
出席対象者 52 / 58 名	出席率 89.66%
欠席者 10 名（病欠者 1 名）	

<ニコボックス>

- 加藤 良邦君** ご無沙汰してます。今春、孫が大学卒業して京都より帰って来ました。今では老壮青 3 世代坊主の人材派遣会社化してます。有難い事です。
- 長田 豊治君** 我が家の長女、長田幸子が先日、名古屋へ嫁に行ってしまった。皆様には多々ご心配ご迷惑を掛けながら、結婚式も披露宴も無く、何の準備も案内も出来ずに恐縮至極に存じます。温かく見守って頂ければ幸甚に存じます。有難うございました。
- 木村 徳雄君** 新社屋が出来ました。色はピンク色からグリーン色になりました。社員が色を決めました。皆さん宜しく。
- 角谷 信二君** 所属する団体を代表して県警察本部長より感謝状を受領しました。
- 鈴木きよみ君** 本日の卓話、碧南市教育部スポーツ課 課長 加藤和彦様、係長 鈴木章宏様をご紹介させていただきます。

<親睦活動委員会>

会員誕生日

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 4 日 黒田 哲郎君 | 5 日 杉浦 秀延君 | 8 日 榊原 健君 |
| 9 日 新美 宗和君 | 11 日 鈴木 並生君（喜寿） | |
| 18 日 新美 真司君 | 20 日 鈴木きよみ君 | 22 日 永坂 誠司君 |
| 25 日 平松 則行君 | 30 日 岡本 耕也君 | |

奥様誕生日

2日 角谷 圭祐君の奥様 倫子様 12日 梶川 光宏君の奥様 久実子様
13日 加藤 良邦君の奥様 妙子様 21日 服部 弘史君の奥様 真澄様
22日 伊藤 正幸君の奥様 亮子様

結婚記念日

3日 角谷 信二君・晴美様 34年 4日 服部 弘史君・真澄様 26年
5日 長田 豊治君・妙子様 48年 5日 竹中 誠君・みのり様 43年
6日 加藤 良邦君・妙子様 52年 11日 永坂 誠司君・るみ様 26年
14日 清澤 聡之君・トキ様 35年 15日 鈴木 泰博君・恵子様 34年
17日 伊藤 正幸君・亮子様 35年 17日 黒田 泰弘君・真美子様 30年
27日 岡本 彰人君・佳美様 22年

入会記念日

12日 角谷圭祐君、亀山晋次君、黒田哲郎君、吉田 弘君
16日 縦山朋久君、長田康弘君、石川鋼勇君、牧野勝俊君

クラブフォーラム

「休日部活動の地域移行について」

碧南市教育部スポーツ課 課長 加藤和彦様



加藤和彦様

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。また、日頃は碧南市民が豊かに過ごせるように社会貢献をしていただき、本当に感謝申し上げます。今日は2点私の方からお時間をいただきまして、お話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

まず、1点目はこちらのチラシでございますが、毎年やっております「チャレンジデー」というものでございます。週1回運動する市民を60%以上に増やそうという活動をしております。その一環で今年は茨城県常陸太田市と秋田県大館市の3市で対戦致します。内容は15分以上運動した方にご報告をいただいて、自治体同士で競い合います。負けた自治体は相手の自治体の旗を庁舎のメインホールに1週間掲揚するというものでございます。参加報告はファックス、メール、電話でも受け付けておりますので、是非よろしくお願い致します。

2点目でございますが、表裏のスクラップを用意させていただきました。これは中日新聞の今年の4月28日の朝刊に載ったものです。見出しが「公立中運動部活 休日は地域で」と書いてあります。ちょっと本文を読ませていただきます。「公立中学校の運動部活動の在り方を検討しているスポーツ庁の有識者会議は26日、休日の部活指導を地域や民間の団体に委ねる地域移行を2023年から2025年度の3年間で達成するとの目標を盛り込んだ提言案を提示した。」ということでございます。現在の中学校の部活動の朝練はありません。授業が終わって

からの部活動も週2回ということで、活動がかなり制限されております。

さらに本文を読ませていただきますと、「休日の地域移行がおおむね完了すれば、平日でも進めていく。有識者会議は5月中に提言を取りまとめる予定。公立中の部活動を巡っては、少子化の進展で存続が困難な学校がある他、教員の長時間労働の一因と指摘されている。」ということでございます。僕が小学生の頃は土曜日の午前中も授業がありました。その後、週休2日制になりました。今、プログラミング教室が小学校から始まりました。英語も小学校からスタートしました。家庭環境も大きく変わりました。昔は家に帰ると迎えてくれる家族が居る家庭がほとんどでしたが、今は核家族化が進んで、家に帰っても迎えてくれる家族が居ない家庭がほとんどなので、児童クラブができてきましたけれども、その分悩みを抱える家庭が増えてきました。保護者だけでは解決できない問題もどんどん増えてきて、学校が家庭問題にも入っていかないと家庭が崩壊してしまうということも出てきました。子供は減っていくんですけども、教員の守備範囲がどんどん増えていっているという背景がございます。また、教員は自分の専門以外の部活動を教える機会も増えました。自分の子供もしっかり育てたいんだけど、そういう環境が無い。そういった時代背景から教員を希望する人がどんどん減ってきたことにスポーツ庁は心配したということでございます。文化庁も7月を目途に提言書をまとめていくということでございます。

さらに本文を読ませていただきますと、「提言書はこのまま少子化が進めば、どの中学校でも運動部活動は廃部や縮小に追い込まれます。学校単位で教員が指導する現状の形を維持するのは極めて困難。中学生のスポーツの機会を確保する為、まずは休日の運動部活指導から段階的に地域に移管することが重要。」と書いてあります。これも言葉で書くと凄く短いんですが、本当にこれができるのかなと思っております。「地域移行は単に部活の実施主体を学校から地域や民間に移すのではない。民間事業者、プロスポーツチームや大学など、地域の実情に応じた多様な実施主体になる可能性があるだろう。」と書いてあります。

さらに本文を読ませていただきますと、「また、地域移行で部活動の部費よりも高い会費になることが想定されるとして、学校や公共施設を低額で使えるようにする他、経済的に困窮する家庭への国や自治体の支援を求めた。」という大きな問題が書いてあります。

裏面の記事を見ていただきますと、「地域運動部活動推進事業」と書いてあります。現在、モデル地区を各都道府県に設けております。愛知県は大口町と春日井市が手を上げて、数校をモデル校としてやっております。その予算として3億5千万円を要求してございまして、国が今どんなふうに考えているかをここで垣間見ることができるので、少しご説明申し上げるとともに問題提起を行います。

まず、名称は「地域運動部活動推進事業」というのがモデル地区の指定の事業名です。内容は「休日の部活動の段階的な地域移行」です。そして、問題が列挙されております。その中で私が注目しているのが、「研修」というものです。現在、スポーツ庁は学校部活動を地域に移行しようと言っておりまして、教員ではなくて、地域の指導者で学校部活動を担ってほしいと言っております。学校教育の一環として位置付けられている部活動を地域の指導者に担ってもらおうということは、相当の研修が必要になると思います。ただ、技術的な指導をするだけではなくて、教育的指導を求められるということで、そんな簡単にできるのかという問題が

ございます。

次に「地域部活動の運営団体の確保」とあります。これは民間ではできないと僕は思います。学校のことを十分に理解していて、学校と凄く太いパイプで連携を密にしながらやらないとやれないんじゃないかなと思ひまして、これは行政がやらないと回っていかないんじゃないかなと思ひます。

次に「平日・休日の一貫指導のための連携・協力体制の構築」とあります。土日祝日を地域移行しようとしております。平日は今まで通り教員がやる訳で、土日祝日だけ見てレギュラーを決めるというので、納得できるかという問題が出てきます。間違った選び方をしてしまう可能性もございます。そうすると、保護者が黙っているかという問題も出てきます。

次に「費用負担の在り方の整理」という一番の大きな問題がござひます。今までは教員が無償で責任を持って愛情を注いでご指導をしていただいていた訳で、それを地域に移行すると会費も掛かり、保険も掛け直しということで、この費用を誰が負担するかという大きな問題がござひます。また、自治体間で差が出てきてしまうという問題もござひます。

最後に「生徒のスポーツ環境充実に向けた学校と地域の協働体制の構築」とあります。これは当たり前で、連携というのは行政が学校教育とタイアップしてやらないとやれないんじゃないのかなというのが私の感覚です。

私は教育委員会のスポーツ課という外の人間ですが、スポーツ課みたいところが今後は受け皿として受けざるを得ないのかなと思ひまして、今日はこのようなお話をさせていただきました。国は学校教育の中から部活動の枠を外そうとしているのがモデル地区から見えるのですが、碧南市の方針は学校教育の中の部活動というのを保持しながら、外部講師の方をどんどん受け入れて、その方たちを中心に学校と一緒にやっぺいこうというのが現在の方向性でござひます。こういった大人の事情で一番被害を受けるのは子供たちです。これを学校だけの問題として考えるのではなくて、地域の問題として捉えていただければ本当に助かります。どうぞよろしくお願ひ致します。

ありがとうございました。

次回例会案内

令和4年5月25日（水）クラブフォーラム「地区研修・協議会報告」